平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	5	ー	4

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	がん予防対策事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		保健係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	葛西隆		氏名	佐々木希美枝
事業の概要	がんによる健康障害の発生･壮年期のがんによる死亡を減少することを目的に、胃･肺･大腸･前立腺･乳･子宮がん検診を実施する。			全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国･道支出金	3,013 千円
					地方債	千円
					その他	3,470 千円
					一般財源	8,063 千円
					事業費計	14,546 千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～			
	基本施策	6	保健･医療の充実			
	単位施策	2	成人保健の充実			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画･根拠等		がん対策基本法			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国･道支出金	千円	707 千円	258 千円	697 千円	682 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	753 千円	716 千円	623 千円	766 千円	856 千円
	雄武町負担額（一般財源）	1,798 千円	1,692 千円	1,809 千円	1,705 千円	1,868 千円
	合計	2,551 千円	3,115 千円	2,690 千円	3,168 千円	3,406 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	町民	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	がんは死因の第一位を占めており健康障害･生活への影響が大きい病気である	がん検診受診率の向上		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	がんの予防及び早期発見により健康障害の発生、生活への影響を軽減することができる	① がん検診受診率	目標年度	平成21年度
			目標値	7 %
			実績値	7.9 %
			達成度	112.9 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	町民のがんによる健康障害と生活への影響が軽減される	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
各種がん検診の実施	胃･大腸･肺･前立腺･乳･子宮がん検診を集団及び個別で実施した。
女性特有のがん検診推進事業の実施	乳･子宮がん検診受診者の増加を目指して特定の年齢の方に無料クーポン券及び検診手帳を交付した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■義務的なもの □全部 ■一部	前立腺がん検診以外は健康増進法により実施が義務付けされている。 また、職域におけるがん検診を受ける機会は少ない現状であり、事業の必要性が高いと考える。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	集団検診・個別検診共、検診の受診機会を拡大したことにより受診者数・受診率が向上した。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 ■時間短縮・作業軽減 □その他	特定健診等他の検診と同時に実施することにより事業費や作業の軽減を図ることができた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る □その他	検診受診者には受益者負担を求めている。また、町民に広く検診の実施を周知することで公平性の確保に努めた。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
検診機会の拡大・周知方法の充実などにより、目標を達成することができた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
今後も検診受診率の向上やがん予防に係る知識・意識の普及が必要である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）